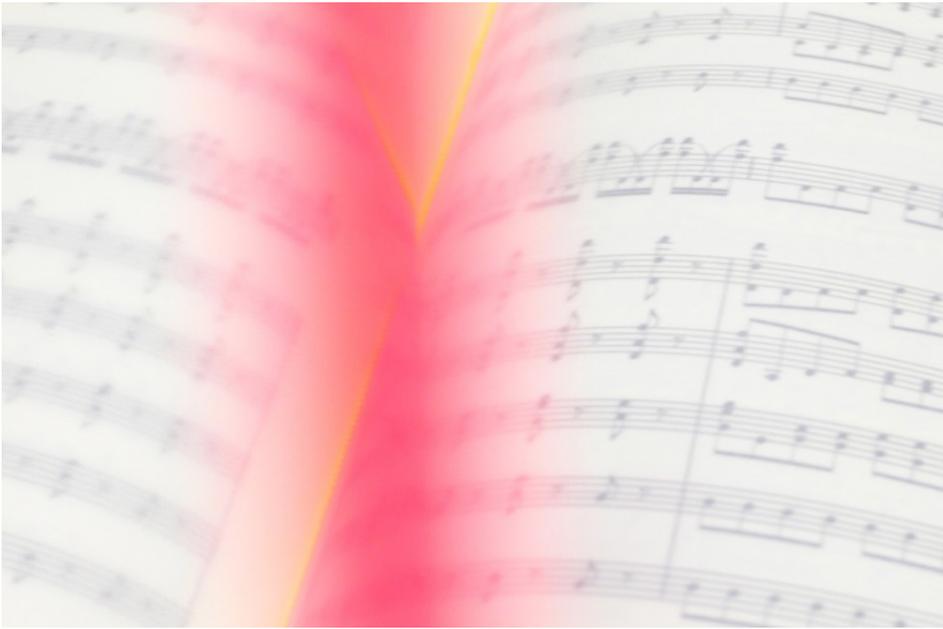


寺田就子 Shuko TERADA ほのめく音色



素材：写真（楽譜、アクリル板、水糸） サイズ：10.2×15.2cm

2013年8月28日（水）～9月14日（土）（月曜日・火曜日休廊） 12時～19時（最終日17時まで）

□ギャラリー・トーク 9月1日（日）14時～15時 入場無料

「記憶のあり方」 宮本博史氏（アーティスト）×寺田就子

ギャラリーあしやシューレでは、この夏の終わりに、寺田就子展を開催いたします。

寺田就子は、私たちの身近にある素材を使いながら、光りが反射する鏡や、透過するガラスを組み合わせ、透明感あふれる作品を制作しています。それぞれの素材が持つ表情は、幻のような儚さと懐かしさの記憶を湛えながら、生み出されるオブジェには、大きな宇宙の波動を漂わせています。

「空気の中に重力がとけ込んでいるような空間を作っている」という彼女の作品は、透徹なまなざしで見つめた日常が、緊張感を伴った風景に移りゆく美しさを表現しています。空気の中に重力がとけ込むさまは、空気と感受性のセンサーの均衡が保たれ、その心地良さに引き込まれていくことに他なりません。

本展では、光りの反射を音の反響に見立て、揺らぐ音を感じる作品など、新作約15点を展示致します。

世の喧噪を避け、内なる気配に耳をそばだててみると、ギャラリー空間に仄（ほの）めく音、そして香りや匂いまでも感じることでしょう。

過ぎゆく夏の終わりに、キラリと光る寺田就子の展覧会。是非ともご高覧いただきますよう、よろしくお願いいたします。

Shuko TERADA creates works full of transparency with materials around us such as mirrors and glasses.

A wave of the universe runs through every object with somewhat ephemeral memories.

She says that she creates a space where gravity melts in the air.

The everyday life seen by clear eyes turns to scenery with tension.

We exhibit 15 of her new works which liken the reflection of light to the echo of sound, in the end of this summer of Galerie Ashiya Schule.

## Artist's statements

制作過程で光りの反射を扱うことが多いが、音もそれと似ていると感じる。

音楽を聴いているとき、いつもとは違うところから聴こえてくる音に気付くことがある。音波がなにかにぶつかって反響しているのだが、それはこちよいい違和感を伴い、思いがけないところから認識させられる。また、耳に残る以前の記憶からは、実際には聴こえない音を感じることもある。

あしやシューレには、ギャラリー空間に置かれたピアノがある。ただ置かれているだけではあるが、ぼんやり眺めていると、奏でられた音が静かに聴こえてくるような錯覚を覚える。

今回は光りの反射を音の反響に見立て、ギャラリー空間と共鳴し揺らめく波動を、各々に感じてもらいたい。

寺田就子

## 作家プロフィール

寺田就子は、1973年大阪生まれ。1997年京都市立芸術大学卒業。現在、関西を一円に制作活動を行っています。

主な個展に、1999年光りの透きま (galerie16/京都)、2000年中宇宙 (galerie16/京都)、2006年澄んだにごり (GALLERY CAPTION/岐阜)、2007年ひとときの虹 (galerie16/京都)、終わりの扉 (GALLERY CAPTION/岐阜)、2008年窓ごしの空色 (iTohen/大阪)、2009年とろける光り (画廊編/大阪)、水たまりにみた波の音 (GALLERY CAPTION/岐阜)、2011年曇り日の影 (GALLERY CAPTION/岐阜)、2012年オレンジに灯る影 (Port Gallery T/大阪)、影の透きまに眩う (galerie16/京都)、blue moment (GALLERY CAPTION/岐阜)、2013年雨滴のレンズ (GALLERY CAPTION/岐阜) など。主なグループ展に、2001年差の地図：日米芸術家交換フェローコラボレーションプロジェクト (galerie 16/京都)、2004年京都府美術工芸新鋭選抜展～2004 新しい波～ (京都文化博物館/京都)、2005年裏・アートマップ (京都芸術センター/京都)、旅の空 (GALLERY CAPTION/岐阜)、MUSEUM LABORATORY 2005 (海岸通ギャラリー・CASO/大阪)、2006年 Art Court Frontior 2006 (ARTCOURT Gallery/大阪)、2007年 small-ness (Muromachi Art Court/京都)、2009年 ACG eyes: 太田三郎を中心に～日常の、アート～ (ARTCOURT Gallery/大阪)、Landscape (GALLERY CAPTION/岐阜)、アートまぶさび (galerie 16/京都)、2010年あいちアートの森～堀川プロジェクト～ (東陽倉庫テナントビル/愛知)、観〇光 EXPO2010 (圓通寺/京都)、2011年通奏低音 (GALLERY CAPTION/岐阜)、京芸 Transmit Program#2 『転置-Displacement-』 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都)、2012年うすらい (GALLERY CAPTION/岐阜)、うつせみ (常懐荘/愛知)、2013年 pink noise (GALLERY CAPTION/岐阜)、窓と物語/windows and the stories Vol.02 (waitingroom/東京) など。

## 宮本博史プロフィール

1978年大阪生まれ、大阪・東京在住。

人の営みに関するであろう様々なことからの関係性やそれらの形態を、哲学的観点でとらえようと試みている。

例えば、ホームムービーの発掘と公開・保存、自宅での展覧会、色々な人とのコラボレーション等々を通じて。

「どこからどこまでが私事の範囲なのか、気になっています。」

## お問い合わせ先

[ギャラリーあしやシューレ]: プレス担当 TEL:0797-20-6629